「コンパス薬理学」

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成 25 年度改訂版）対応一覧

2015.3 （株）南江堂

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
E　医療薬学		
E1　薬の作用と体の変化		
(1) 神経系の疾患と薬		
①薬の作用	1. 薬の用量と作用の関係を説明できる. 2. アゴニスト（作用薬，作動薬，刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬，遮断薬）について説明できる. 3. 薬物が作用するしくみについて，受容体，酵素，イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる. 4. 代表的な受容体を列挙し，刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる. 5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し，活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる.（C6（6）【②細胞内情報伝達】1. ～ 5. 参照）	1 章
	6. 薬物の体内動態（吸収，分布，代謝，排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる.	2 章
	7. 薬物の選択（禁忌を含む），用法，用量の変更が必要となる要因（年齢，疾病，妊娠等）について具体例を挙げて説明できる. 8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し，その機序を説明できる.（E4（1）【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5. 参照） 9. 薬物依存性，耐性について具体例を挙げて説明できる.	3 章
(4) 医薬品の安全性		
	1. 薬物の主作用と副作用，毒性との関連について説明できる. 2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる.	3 章
E2 薬理・病態・薬物治療		
(1) 神経系の疾患と薬		
①自律神経系に作用する薬	1. 交感神経系に作用し，その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ，薬理作用，機序，主な副作用を説明できる. 2. 副交感神経系に作用し，その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ，薬理作用，機序，主な副作用を説明できる. 3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ，薬理作用，機序，主な副作用を説明できる. 4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる.（技能）	5 章
②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬，病態，治療	1. 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ，薬理作用，機序，主な副作用を説明できる. 2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ，薬理作用，機序，主な副作用を説明できる. 3. 知覚神経，運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる.（技能）	6 章
	4. 以下の疾患について説明できる. 進行性筋ジストロフィー，Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群，重症筋無力症（重複）	—
③中枢神経系の疾患の薬，病態，治療	1. 全身麻酔薬，催眠薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる. 2. 麻薬性鎮痛薬，非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用（WHO 三段階除痛ラダーを含む）を説明できる. 3. 中枢興奮薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる. 4. 統合失調症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 5. うつ病，躁うつ病（双極性障害）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 6. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害），心身症，不眠症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 7. てんかんについて，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 8. 脳血管疾患（脳内出血，脳梗塞（脳血栓，脳塞栓，一過性脳虚血），くも膜下出血）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 9. Parkinson（パーキンソン）病について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 10. 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症，脳血管性認知症等）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる. 11. 片頭痛について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる.	4 章

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
③中枢神経系の疾患の薬，病態，治療	12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる．（技能） 13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する．（態度） 14. 以下の疾患について説明できる． 脳炎・髄膜炎（重複），多発性硬化症（重複），筋萎縮性側索硬化症，Narcolepsy（ナルコレプシー），薬物依存症，アルコール依存症	—
④化学構造と薬効	1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	4 章，5 章，6 章
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬		
①抗炎症薬	1. 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる．	14 章
	2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる． 3. 創傷治癒の過程について説明できる．	—
②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬，病態，治療	1. アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬，抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 2. 免疫抑制薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 3. 以下のアレルギー疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． アトピー性皮膚炎，蕁麻疹，接触性皮膚炎，アレルギー性鼻炎，アレルギー性結膜炎，花粉症，消化管アレルギー，気管支喘息（重複） 4. 以下の薬物アレルギーについて，原因薬物，病態（病態生理，症状等）および対処法を説明できる． Stevens-Johnson（スティーブンス - ジョンソン）症候群，中毒性表皮壊死症（重複），薬剤性過敏症症候群，薬疹 5. アナフィラキシーショックについて，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 6. 以下の疾患について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 尋常性乾癬，水疱症，光線過敏症，ベーチェット病 7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． バセドウ病（重複），橋本病（重複），悪性貧血 (重複)，アジソン病，1 型糖尿病（重複），重症筋無力症，多発性硬化症，特発性血小板減少性紫斑病，自己免疫性溶血性貧血（重複），シェーグレン症候群 8. 以下の全身性自己免疫疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 全身性エリテマトーデス，強皮症，多発筋炎／皮膚筋炎，関節リウマチ（重複）	14 章
	9. 臓器移植（腎臓，肝臓，骨髄，臍帯血，輸血）について，拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	—
③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬，病態，治療	1. 関節リウマチについて，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	14 章
	2. 骨粗鬆症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 変形性関節症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症，骨軟化症（くる病を含む），悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	9 章，13 章
④化学構造と薬効	1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	9 章，13 章，14 章
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬		
①循環器系疾患の薬，病態，治療	1. 以下の不整脈および関連疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC），心室性期外収縮（PVC），心房細動（Af），発作性上室頻拍（PSVT），WPW 症候群，心室頻拍（VT），心室細動（VF），房室ブロック，QT 延長症候群 2. 急性および慢性心不全について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 虚血性心疾患（狭心症，心筋梗塞）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. 以下の高血圧症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 本態性高血圧症，二次性高血圧症（腎性高血圧症，腎血管性高血圧症を含む）	7 章
	5. 以下の疾患について概説できる． 閉塞性動脈硬化症（ASO），心原性ショック，弁膜症，先天性心疾患 6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる．（技能）	—

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
②血液・造血器系疾患の薬，病態，治療	1. 止血薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 2. 抗血栓薬，抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 3. 以下の貧血について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 鉄欠乏性貧血，巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)，再生不良性貧血，自己免疫性溶血性貧血（AIHA），腎性貧血，鉄芽球性貧血 4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 血友病，血栓性血小板減少性紫斑病（TTP），白血球減少症，血栓塞栓症，白血病（重複），悪性リンパ腫（重複）（E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬，病態，治療】参照）	12 章
③泌尿器系，生殖器系疾患の薬，病態，薬物治療	1. 利尿薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる．	11 章
	2. 急性および慢性腎不全について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	7 章
	3. ネフローゼ症候群について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. 過活動膀胱および低活動膀胱について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 5. 以下の泌尿器系疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 慢性腎臓病（CKD），糸球体腎炎（重複），糖尿病性腎症（重複），薬剤性腎症（重複），腎盂腎炎（重複），膀胱炎（重複），尿路感染症（重複），尿路結石 6. 以下の生殖器系疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 立腺肥大症，子宮内膜症，子宮筋腫 7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について，薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	9 章
	8. 以下の生殖器系疾患について説明できる． 異常妊娠，異常分娩，不妊症	—
④化学構造と薬効	1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	7 章, 9 章, 11 章, 12 章
（4）呼吸器系・消化器系の疾患と薬		
①呼吸器系疾患の薬，病態，治療	1. 気管支喘息について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 間質性肺炎について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. 鎮咳薬，去痰薬，呼吸興奮薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる．	8 章
②消化器系疾患の薬，病態，治療	1. 以下の上部消化器疾患について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む），消化性潰瘍，胃炎 2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎，クローン病等）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 肝疾患（肝炎，肝硬変（ウイルス性を含む），薬剤性肝障害）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. 膵炎について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 5. 胆道疾患（胆石症，胆道炎）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 6. 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 7. 便秘・下痢について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 8. 悪心・嘔吐について，治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	10 章
	9. 痔について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	—
③化学構造と薬効	1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	8 章，10 章

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬		
①代謝系疾患の薬，病態，治療	1. 糖尿病とその合併症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 2. 脂質異常症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 高尿酸血症・痛風について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	13 章
②内分泌系疾患の薬，病態，治療	1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 2. Basedow（バセドウ）病について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. 甲状腺炎（慢性（橋本病），亜急性）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. 尿崩症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 5. 以下の疾患について説明できる． 先端巨大症，高プロラクチン血症，下垂体機能低下症，ADH 不適合分泌症候群(SIADH)，副甲状腺機能亢進症・低下症，Cushing（クッシング）症候群，アルドステロン症，褐色細胞腫，副腎不全（急性，慢性），子宮内膜症（重複），アジソン病（重複）	9 章
③化学構造と薬効	1. 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	9 章，13 章
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬		
①眼疾患の薬，病態，治療	1. 緑内障について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 2. 白内障について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	11 章
①眼疾患の薬，病態，治療	3. 加齢性黄斑変性について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	–
①眼疾患の薬，病態，治療	4. 以下の疾患について概説できる． 結膜炎（重複），網膜症，ぶどう膜炎，網膜色素変性症	14 章，15 章
②耳鼻咽喉疾患の薬，病態，治療	1. めまい（動揺病，Meniere（メニエール）病等）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	11 章
②耳鼻咽喉疾患の薬，病態，治療	2. 以下の疾患について概説できる． アレルギー性鼻炎（重複），花粉症（重複），副鼻腔炎（重複），中耳炎（重複），口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎 (重複)，喉頭蓋炎	14 章，15 章
③皮膚疾患の薬，病態，治療	1. アトピー性皮膚炎について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．（E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬，病態，治療】参照）	14 章
③皮膚疾患の薬，病態，治療	2. 皮膚真菌症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．（E2（7）【⑤真菌感染症の薬，病態，治療】参照）	16 章
③皮膚疾患の薬，病態，治療	3. 褥瘡について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	—
③皮膚疾患の薬，病態，治療	4. 以下の疾患について概説できる． 蕁麻疹（重複），薬疹（重複），水疱症（重複），乾癬 (重複)，接触性皮膚炎（重複），光線過敏症（重複)	14 章
④化学構造と薬効	1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	14 章，16 章
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬		
①抗菌薬	1. 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用，機序，抗菌スペクトル，主な副作用，相互作用，組織移行性）および臨床適用を説明できる． β- ラクタム系，テトラサイクリン系，マクロライド系，アミノ配糖体（アミノグリコシド）系，キノロン系，グリコペプチド系，抗結核薬，サルファ剤（ST 合剤を含む），その他の抗菌薬	15 章
①抗菌薬	2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ，その作用機序を説明できる．	—
②抗菌薬の耐性	1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる．	15 章

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
③細菌感染症の薬，病態，治療	1. 以下の呼吸器感染症について，病態（病態生理，症状等），感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む），気管支炎，扁桃炎，細菌性肺炎，肺結核，レジオネラ感染症，百日咳，マイコプラズマ肺炎 2. 以下の消化器感染症について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 急性虫垂炎，胆嚢炎，胆管炎，病原性大腸菌感染症，食中毒，ヘリコバクター・ピロリ感染症，赤痢，コレラ，腸チフス，パラチフス，偽膜性大腸炎 3. 以下の感覚器感染症について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 副鼻腔炎，中耳炎，結膜炎 4. 以下の尿路感染症について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 腎盂腎炎，膀胱炎，尿道炎 5. 以下の性感染症について，病態（病態生理，症状等），予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 梅毒，淋病，クラミジア症等 6. 脳炎，髄膜炎について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 7. 以下の皮膚細菌感染症について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 伝染性膿痂疹，丹毒，癰，毛嚢炎，ハンセン病 8. 感染性心内膜炎，胸膜炎について，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について，感染経路と予防方法，病態（病態生理，症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． MRSA，VRE，セラチア，緑膿菌等 10. 以下の全身性細菌感染症について，病態（病態生理，症状等），感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． ジフテリア，劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症，新生児B群連鎖球菌感染症，破傷風，敗血症	15章
④ウイルス感染症およびプリオン病の薬，病態，治療	1. ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス，水痘・帯状疱疹）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），予防方法および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 2. サイトメガロウイルス感染症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 3. インフルエンザについて，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），感染経路と予防方法および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 4. ウイルス性肝炎（HAV，HBV，HCV）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎，慢性肝炎，肝硬変，肝細胞がん），症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．（重複） 5. 後天性免疫不全症候群（AIDS）について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），感染経路と予防方法および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 6. 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について，感染経路と予防方法および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 伝染性紅斑（リンゴ病），手足口病，伝染性単核球症，突発性発疹，咽頭結膜熱，ウイルス性下痢症，麻疹，風疹，流行性耳下腺炎，風邪症候群，Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト - ヤコブ）病	17章
⑤真菌感染症の薬，病態，治療	1. 抗真菌薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用）および臨床適用を説明できる． 2. 以下の真菌感染症について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 皮膚真菌症，カンジダ症，ニューモシスチス肺炎，肺アスペルギルス症，クリプトコックス症	16章
⑥原虫・寄生虫感染症の薬，病態，治療	1. 以下の原虫感染症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． マラリア，トキソプラズマ症，トリコモナス症，アメーバ赤痢 2. 以下の寄生虫感染症について，治療薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用），および病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 回虫症，蟯虫症，アニサキス症	18章

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
⑧悪性腫瘍の薬，病態，治療	1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用，機序，主な副作用，相互作用，組織移行性）および臨床適用を説明できる． アルキル化薬，代謝拮抗薬，抗腫瘍抗生物質，微小管阻害薬，トポイソメラーゼ阻害薬，抗腫瘍ホルモン関連薬，白金製剤，分子標的治療薬，その他の抗悪性腫瘍薬 2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる． 3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢，悪心・嘔吐，白血球減少，皮膚障害（手足症候群を含む），血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる． 4. 代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX 等）について，構成薬物およびその役割，副作用，対象疾患を概説できる． 5. 以下の白血病について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 急性（慢性）骨髄性白血病，急性（慢性）リンパ性白血病，成人 T 細胞白血病（ATL） 6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 7. 骨肉腫について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 胃癌，食道癌，肝癌，大腸癌，胆嚢・胆管癌，膵癌 9. 肺癌について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 脳腫瘍，網膜芽細胞腫，喉頭，咽頭，鼻腔・副鼻腔，口腔の悪性腫瘍 11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 前立腺癌，子宮癌，卵巣癌 12. 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌，膀胱癌）について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる． 13. 乳癌について，病態（病態生理，症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる．	19 章
⑩化学構造と薬効	1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる．	15 ～ 19 章

※E2：薬理学解説を中心とした記述であり，各疾病の病態，薬物治療については対応しない．